



# 年頭挨拶

北海道開発局長 坂場 武彦

明けましておめでとうございます。

謹んで新年のお喜びを申し上げますとともに、平素から北海道開発行政の推進に特段のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昭和26年から切れ目なく策定されてきた北海道総合開発計画は、今年度から新たに第9期の計画がスタートしました。昨年を振り返りますと、私としては、第9期計画策定と共創の取組を広げるための1年でした。

昨今、食料安全保障、観光立国の再興、2050年カーボンニュートラルの実現という我が国の課題が顕在化し、北海道のポテンシャルが注目されたこの時期に新たな総合開発計画をスタートしたことは大きな意義があり、第9期計画とともに発足した各開発建設部地域連携課が中心となって道内各地で開催したキックオフイベントをきっかけにして、今後も共創の「関係者」の裾野を継続的に広げていきたいと考えています。

昨年の災害では、元日に発生した令和6年能登半島地震とその後の大雨の災害が特に強く印象に残っています。厳冬期の元日夕方に発災したことから、冬期の積雪・寒冷条件がより厳しく、交通のアクセス性に課題のある地域を多く抱える北海道において、巨大地震・津波が発生した場合の災害対応に、より一層の危機感を感じているところです。

こうした頻発・激甚化する災害から生産空間を始めとする北海道の国土を守るため、これまで国土強靱化の取組を重点的かつ集中的に進めてきたところであり、この先も政府方針として国土強靱化実施中期計画の早期策定を目指すこととしていることから、北海道開発局としても5か年加速化対策完了後も切れ目なく

国土強靱化の取組を進めていきたいと考えています。

また、生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくりに向けて、社会資本整備も着実に進めております。昨年は、道東自動車道の阿寒IC～釧路西IC間が開通したことで札幌と釧路が高速道路で直結したほか、函館港・小樽港におけるクルーズ船対応岸壁の整備、新桂沢ダムの建設や厚真川水系の砂防に関する災害復旧事業などが完了し、勇払東部地区を始めとする4箇所農業農村整備事業は今年度で完了します。引き続き、社会資本整備を着実に進めてまいります。

「民族共生象徴空間（ウポポイ）」は、より多くの方々にお越しいただきアイヌ文化への理解を深めていただくため、昨年3月に策定された「ウポポイ誘客促進戦略」に基づき、全天候型弓矢体験など体験コンテンツの改善や新設、テレビアニメ「ゴールデンカムイ」と連携したキャンペーンなどに取り組んでおり、引き続き、関係機関と協力して取り組んでまいります。

北海道総合開発計画は、北海道の開発を通じて全国の課題解決に貢献することを使命としており、そのためにも安定的な予算確保を実現していくことが重要だと考えています。北海道の強みと価値を糧に、今年も引き続き、皆様と一緒に「共創」の取組をはじめとする第9期計画の取組を推進し、明治以降の開拓の歴史の中で培われてきたフロンティア精神を再び発揮し、北海道の課題解決、ひいては我が国の豊かな経済・社会づくりに貢献していきたいと思っております。

結びになりますが、皆様のご健勝とご発展をご祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

